第三百十二条

詐欺ハ直チニ兼諾ノ瑕疵トナルモノニ非ス唯加害行為タルニ過キスシテ之カ為メ生シタル損害ノ賠償義務ノ発生セシムルノミ但時トシテ合意ノ取消ヲ言渡スコトアルモ是レ補償ノ名義ヲ以テスルニ過キスシテ善意ノ第三者ニ此取消ノ効ヲ及ホスヲ能ハス

蓋シ当事者ト共謀セサル第三者詐欺ヲ行フモ唯此第三者ヲシテ賠償ノ責ニ任セシムルニ過キス然レトモ詐欺ノ行為ハ如何ニ従ヒ其性質及ヒ程度ヲ異ニ当事者之ヲ行フトキハ兼諾ノ瑕疵トナリ第三

同出省

者之ヲ行フヿヲ能ハサル所ノ毫モ義務ノ効力ヲ損セサルハ道理ノ容レサル所ナリ

之ニ反シ錯誤ニ至テハ何レノ点ニ存スルヲ問ハス法律ニ其由テ来ル所ヲ区別スルヿナク又区別スルヿカラサルモノナリ蓋シ錯誤ハ錯誤者ノ自ラ陥リタル他ノ当事者若クハ第三者ノ過失ニ起因スル尤問ハス必ス義務ノ瑕疵ヲ生ルモノナリ強暴ニ至テハ亦之ヲ行フヿル者如何ヲ問ハス毎ニ義務ノ瑕疵ト為ルモノナリ斯ノ如ク詐欺ノ錯誤及ヒ強暴ハ共ニ合意ノ効力ヲ失フヿ[illegible]

柳モ詐欺トハ異シテ何ヲ謂ヒタルカ四維馬法学者其定義ヲ下シテ曰ク詐欺トハ一物ヲ返

粧シ以テ他物ト為スヲ謂フ又曰ク詐欺トハ
人ヲシテ錯誤ニ誘導スルカ為メ用ヒル所ノ
術数計策ヲ謂フト然レトモ同学者モ亦未タ
一切ノ計策ヲ挙ケタリシニ非ス各当事者其
利益ヲ計リ成ルヘク合意ニ因リ得ル所アル
カ為メ智計ヲ用ヒルカ若キ敢テ其非トセサル
所ニアラスシテ此点ニ付キ同学者ハ善良ナル
詐欺ト不正ノ詐欺トヲ区別シ不正ノ詐欺ノミ
独リ攻撃スルヲ得ヘキモノトセリ然レトモ近世
ニ至テハ詐欺トハ必ス不良ナル計策ヲ謂ヒ当
事者ヲ誤ラシムルヲ目的トシ且此目的ヲ達
シタル詐術ノ意義ヲ有ス

是ニ由テ之ヲ觀レハ錯誤ハ詐欺ヨリ生ス直
接ノ害悪ニシテ詐欺ノ果シテ兼諾ノ瑕疵タル
ヤ否ヤヲ決スルニ当テハ先ツ之カ為メ如何ナル
錯誤ヲ生シタルヤヲ考究スルヲ要ス
若シ詐欺ノ為メ第三百九条ニ別示シタル錯
誤ヲ来シタル片即チ合意ノ性質、其目的其
原因、又ハ当事者其人ヲ以テ決意ノ原因トシ
タル片其人ニ錯誤アル片ハ兼諾ナキカ故ニ合
意当然無効ニシテ錯誤ノ詐欺ニ起因セル
ト当事者自ラ錯誤シタルトヲ問ハス其合意
為タル無効ニ至テハ敢テ異ナルヿナシ唯詐欺
アリタル片ハ損害賠償ヲ保セ求ル得ル

リシ

又詐欺ノ為メ生シタル錯誤第三百九条第三項ニ規定シタル場合ニ於テ当事者ノ身上ニ存スルカ又ハ第三百十条ニ所謂物ノ品質ニ存スル件ハ表意者ニ瑕疵アリト雖モ詐欺ノ為メニ此又ニテ錯誤ノ為メナリ

此他ノ錯誤ニテ詐欺ノ為メニ生スルト雖モ可キモノ如何蓋シ当事者ノ身上ノ着眼ヲ以テ合意ノ原因トセサル件其身上ノ錯誤、物ノ品格ノ錯誤及ヒ縁由ノ錯誤アルノミ然ルニ是等ノ錯誤ハ前ニ説明シタルカ如ク表意者ノ瑕疵ト為リ合意ノ無効ヲ来スカ如キ重大ノモノニ非サル

ナリ而シテ其当事者自ラ招キタル二非ス詐
欺ニ由来シタルモノナルヤト雖モ敢テ之カ為メ
ニ其性質ヲ変スヘキニ非ス唯其錯誤ニ起因シ
タルヤハ加害行為アリテ加害者損ヲ之ヲ補
償スルノ責ニ任スヘキノミ故ニ此場合ニ於テハ義
務契約ヨリ生スルニ非スシテ民事犯罪ヨリ生
スルモノナリ
以下其補償ノ方法如何ヲ述ヘシ
代ヲ此場合ニ於テモ他ノ場合ニ於ケルカ如クス
正ニ加ヘタル損害ヲ補償スルニハ金銭ヲ以テス
可キナリ此方法タル詐欺ヲ行フタル者結約者ニ
非サルヤハ一ニ之ヲ用ヒテ得ルノミ又結約者カ

詐欺ヲ行フタルキト雖モ其詐欺合意ノ成ルニ影響ヲ及ホサス当事者ヲシテ義務ヲ負ハシムルノ意ヲ決セシメタルニ非スシテ唯不利益ナル条件ヲ受諾セシメタルニ過キサル時ハ商法ニ例ヘハ賣渡物ノ附従ノ品格ニ付キ詐欺アリタル時ノ如シ是レ論者カ所謂附帯ノ詐欺ナルモノナリ之ニ反シ法例者ノ行フタル詐欺主タル詐欺ナル時ハ例ヘハ縁由ニ関シ詐欺アリタル時ハ金銭ノ賠償ヲ以テ充分ニ損害ヲ補償スル能ハサルヲサシトセス故ニ此場合ニ於テハ当事者ヲシテ其日位置ヲ復セシメ之ヲシテ損害アル合意ヲ解脱セシムルヲ単簡且至当トスル

其ニ斯ノ如ク其ニ斯ノ如ク詐欺ノ為メ補償ノ
名義ヲ以テ合意ヲ取消スモ其取消シタル兼
詐ノ瑕疵アルヿカ為メ言渡スヿノ取消ト同
一ノ性質ヲ有スルモノニ非ス此二者ノ間ニハ箇ノ
差異ノ存スルアリ
第一、詐欺ヲ以テ取結ハシタル合意譲渡ニ
テ而シテ他ノ合意ニ因リ其ノ意思ヲ詐欺強
暴ニテカラサル第三者ノ掌裡ニ移リタルトキ
ハ前ノ譲渡不動産ヲ目的トスルモノタルトキト
雖モ猶ホ轉得者ノ損害ヲ顧ミスシテ之
ヲ取消スヿヲ得ス然レトモ兼詐ノ瑕疵アルヿ
因リ合意ヲ取消シタルトキハ後ニ規定スルカ如

リ轉得者ニ対シテ其取消ノ効ヲ及ホスヲ得此第一ノ差異ハ本条第項ニ明示スル所ナリ

第二、詐欺者数人ニシテ其一人ノ詐欺ヲ行ヒタル場合ハ合意ヲ取消スヲ得ス蓋シ詐欺ニ関セサル者ニ取消ノ効ヲ及ホス所カラサル故ナリ此差異タル偏ニ公義條理ニ基クモノニシテ本条第項ノ律文ニ就テ見レハ明瞭ナルモノナリ因項ニ因リテ当事者ノ一方カ詐欺ヲ行ヒタル時ハ此サレハ補償ノ名義ニテ合意ヲ取消スヲ許サヽルカ故ニ当事者ノ一方数人アル時ハ其数人共ニ詐欺ヲ行ヒタル時ニ此サレハ之ヲ適用

ス可カラス

第三、詐欺ノ補償訴権ハ他ノ対人訴権ナル為
故ニ単ニ損害賠償ノ債権ニ過キスシテ合意
ヲ取消スハ其特種ノ方法タルノミ故ニ欺カレテ
譲渡シタル為メニ生シタル何等ノ優先権ヲモ
生スルヿナシ是ヲ以テ詐欺ヲ行ヒタル者無
資力トナリタルトキハ假令譲渡物件尚ホ其
所有ニ属スルトキト雖モ亦總債権者ノ担保ト
ナリ其物ハ總債権者ノ為メニ責却スルモノト
ナリ詐欺ヲ被ムリタル譲渡人ハ自己ノ損失
ニ應ニ賠償ヲ受クルカ為ノ他ノ債権者ト
共ニ分配ヲ受ケサル可カラス然レトモ其詐欺
者ハ其流有シタル物件ノ代ハリニ賠償ヲ請求ヲ為ス

瘕ノ為ノ合意ヲ取消シタル片ハ取得者ノ債
権者ノ為ノ其効ヲ及ホスノカラス例トナル原
告ハ其流有シタリシ物権ニ據リ請求ヲ為ス
モノナレハナリ此差異タル一般ノ原則ニ因リ自
ラ生スルモノニシテ特ニ法文アルヲ要セサル所ナ
リ

第三項ニ依レハ被害者ハ合意ヲ取消スノ外
損害賠償ヲ求ムルヲ得是亦原則ノ然ラ
シムル所ナリト雖モ本法律ニ特示スルヲ所ナリ
トス

第三百十三条

凡ソ強暴ハ兼詐ノ瑕疵ト看做スニ過キサル

モノナリ是ハ四維馬佐ノ理論ニシテ之ニ依レハ
「強制スルモ意思ハ即チ意思ナリト云ヘリ
是ヲ以テ近時ノ学者亦曰ク強暴脅迫ノ為
メ意ヲ極ケタルモノハ危害ノ最モ軽キモノヲ選
ミ其ニテ之ヲ受ケタルモノナルカ故ニ利害得失ヲ
考ヘ以テ承諾シタルモノナリ故ニ強暴脅迫ノ為
然リト雖モ亦強暴ノ至大ニシテ到底之ニ抵抗ス
ルヲ能ハス随テ利害ヲ考フルノ暇ナリ意思モ
ナク又承諾モ無キ場合ナリト云フ所カラス唯斯
ノ如キハ殺害又ハ放火ノ脅迫アリ而シテ其脅
迫実行ノ危害急迫ナル件例ヘハ当事者ノ
一方ヲ束縛シ又ハ其護身ノ器ナキニ当リ先

器ヲ其胸ニ擬シ以テ之ニ義務ヲ強ヒ又ハ権利ヲ
譲渡スヘキヲ迫タル場合又ハ残虐拷掠ヲ
殴ヲ用ヒタル場合ノ外強ト強テ之ニ無カル可
キ事ニ基ク如キ場合ニ於テハ諸若クハ挙
動ヲ以テ同意ヲ表スルモ毫モ真ニ意思アリタル
ト謂フ可カラス
又本条ハ不可抗力ニ出タル急迫ノ災害ヲ避ケ救
助ヲ求ムルカ為メ資産ノ全部若クハ多分ヲ
失ヒタル場合ヲ以テ前項説ク所ノ場合ト同
一視シタリ蓋シ其全意タル法文ニ示ヘルカ如
ク過度又ハ無思慮ナルモノニシテ時ノ古今ヲ問
ハス國ノ事情ヲ論セス往々実例アリテ裁判

上至難ノ紛議ヲ生ジタル所ナリ而シテ其危害ノ経過シタル後ニ過度ナル義務ヲ約シ又ハ無思慮ナル譲渡ヲ為シタル者ハ其意思自由ナラス又加之或ハ毫モ意思ナカリシカ為メ其義務譲渡ヲ看認ムヲ欲セサルナリ此場合ニ於テハ裁判所ハ其義務又ハ譲渡ノ範囲ヲ減ナセシムル能ハス若シ之ヲ許スヤハ是レ裁判所ヲシテ厚子意ヲ金銭ニ見積ルヲ得セシムルモノト謂フヘシ然ルニ厚意ハ決シテ金銭ニ見積ルヲ得ヘキモノニ非サルナリ是ヲ以テ其合意無思慮ナルニ非サレハ其効力ヲ全ウスヘク又其過度ニシテ強テ義務ヲ看認ムヤハ毫モ其効力ナシ

ト見認メサルヲカラス是レ本条第二項ニ明定スル所ナリ勿論此場合ニ於テモ裁判所ハ請求ニ應シ救助ヲ為シタル者ヲシテ賠償ヲ得セシムルヲ得ヘシト雖モ救助ノ為メ其冒シタル危険若クハ之カ為メ其身体財産ニ被リタル損害ヲ以テ賠償ノ標準ト為スヲ可トス其他ハ徳義上ノ責任ニ放任シ之カ為メ自然義務ヲ生スヲキノミ

強暴ノ単ニ兼諾ノ瑕疵ナル場合ハ第三項ニ之ヲ規定スル蓋シ同項ニ豫定スル所モ亦強暴及ヒ急迫ノ災害ナリト雖モ其程度軽シサナキモノニシテ当事者ノ一方其危害ヲ畏懼シ遂

ニ危害ヲ被ラシヨリ寧ロ合意ヲ兼諾スルニ
決意シタル場合ナリ法文ニ依ルニ其危害切
迫セルヲ要ス蓋シ其切迫セサル片ハ当事者
真ニ畏懼スルヿ合意ヲ為スハ損害ヲ懼レ
ヨリ大ナリト云フヿ能ハス唯其切迫セルヲ要
スルハ危害自体ト謂ハシヨリ寧ロ畏懼ナリト
謂フ所ニ
又法文ニ依ルニ当事者カ合意ヲ為シ以テ免
カレントスル所ノ危害ハ「其身体ニ対スル
ト財産ニ対スルトヲ問ハス又「他人ノ身体ニ対ス
ルト財産ニ対スルトヲ問ハサルモノトス其ハ斯
ノ如ク遙ニ身体ト財産トヲ同一視シ又本

人ト第三者トヲ同一視スト雖モ其間未タ全ク
同ジカラサルモノ有リ蓋シ裁判ハ財産ニ対スル
危害ニ比シ身体ニ対スル危害ヲ観テ一層重
ク又他人ニ対スル危害ニ比シ結伯者ニ対スル危
害ヲ観テ一層重シト為スヲ得ベシ固ヨリ裁
判ニ於テハ危害ノ軽重及ビ畏懼ノ為メ意
思ニ及ボシタル影響ヲ査定スルヤ故ニ諸般
ノ事情ヲ斟酌セサルヲカラス高ク其査定ノ
事ニ関シテハ次条ニ示ス所ノ標準アリ
正当ノ脅迫ヲ用ヒテ正当ノ危害ヲ免カルヽカ
為メノ義務ヲ帯ビ又ハ譲渡ヲ為スノ意思ヲ
決セシムルモノ兼諾ニ瑕疵ヲ付セサルヤ敢テ異

議ヲ生セサル可キヲ以テ本条之ヲ明記セス
例ヘハ民事ノ訴追若クハ被害者ノ告訴ヲ
待テ公訴ノ起ル可キ場合ニ於テ刑事ノ告訴ヲ
受ク可シトノ脅迫ヲ被リタル者之ヲ免カレ
シカ為メ和解ヲ為シタル件ハ其受ク可キ危害
ニ付キ虚言アリタル場合ニ非サレハ其脅迫
ノ為メ敢テ苦情ヲ唱フルヿ能ハス唯虚言ニ
惑ハサレタル場合ニ於テハ強暴アリト謂フ可カラ
ス詐欺アリト謂フ可キカ故ニ第三百十二条ニ定
メタル區別ニ從ヒ或ハ其義務ヲ取消シ或ハ其
區域ヲ減少セシムルヿヲ得ヘシ

第三百十四条

親屬若クハ姻屬ニシテ其流景亮ヲ近キ件ハ自然ノ愛情深クシテ之ニ對シ危難ノ恐アル件ハ当事者自身其恐ヲ受ケタル件ト同一ノ結果ヲ生ズルモノト推定ス然レトモ法律上ノ推定ハ此ニ止リ他ノ親屬若クハ姻屬ニ付テハ愛情ノ為メ其恐ヲ受ケタル件ト同一ノ結果ヲ生ズルモノト推定スル法律上ノ推定ハ此ニ止リ他ノ親屬若クハ姻屬ニ付テハ愛ケタル強暴結約者ノ自由ニ影響ヲ及ホシタルヤ否ヤノ問題ハ事実上裁判所ノ査定スヘキ所トス又友情ノ為メ或ハ人情他人ノ脅迫ヲ受クルヲ見ルニ忍ヒス之ヲシテ危害ヲ免カレシメンカ為メ其意ヲ枉テ結約スルヲ無セサルカ故ニ裁判所ハ高ク其事情ヲ斟酌スルヲ得

司法省

本条ハ人ノ行為ヲ以テ強暴ニ因リ第三者危難ノ害ヲ受ケタル場合ヲ規定スト雖モ亦前条第二項ニ仮定シタル意外ノ災害アル場合ニ之ヲ適用セサル可カラス例ヘハ親属若クハ朋友ヲ救フカ為メ其資力ニ不相当ナル金額ヲ与ヘンヲ約シタル件ノ如キ即チ宜シク本条ヲ適用スヘキナリ

第三百十五条

本条ニ規定スル所ニ就テ之ヲ観レハ強暴ト詐欺トハ大ニ異ナルモノニシテ詐欺自体ノ兼詐ハ瑕疵ト為ラス其合意ニ及ホス影響之ヲ行フヲ人ニ因リ異ナリト謂ヘハ即チ此

規定アルカ故ナリ

蓋シ不可抗力即チ自然ノ事変ニ出テタル急迫ノ災害ヲ以テ当事者ノ強暴ト同一ノ畏懼ヲ生セシムルモノトス首倣スル以上ハ第三者ノ強暴恐喝ニ瑕疵ヲ付シ又ハ之ヲ阻却スルヤ否ヤ疑ヲ容レサルヤキニ非サルナリ

第三百十六条

合意ノ取消ハ恐喝ニ瑕疵アル当事者ノミ独リ請求スルヲ得ヘキモノナリ是レ第三百十九条ニ定ムル所ナリ本条ノ趣意ハ合意ノ取消ハ極端ノ手段ニシテ当事者強ヒテ之ヲ用ユルニ及ハス損害賠償ヲ得以テ自ラ満足スルヲ得ヘシ

ト謂フニ在リ既ニ第三百十二条ニ於テ詐欺ノ事ニ付キ同一ノ規定ヲ掲ケタリ本条ハ錯誤ノ場合ニ準用スルヲ得ヘキモノナレハ無能力ノ場合ニ之ヲ準用スルカラス何トナレハ此場合ニ於テハ他ノ当事者ニ過失アラサレハナリ

第三百十七条

本条ハ裁判所ニ付与スルニ唯ニ強暴ノ事実ヲ査定スルノミナラス又強暴ヲ受ケタル当事者ノ位置ヲ査定スルノ権ヲ以テス是ヲ以テ精神怯弱又ハ疾病ノ為メ甚タ重カラサル脅迫ヲ恐レシム甚キモノ如キハ法律ノ保護ヲ受クルヲ可キナリ蓋シ当事者ノ

一方特ニ性弱ナルニ乘シ他ノ一方強暴ヲ行フタルトキハ其合意充分ノ自由ナル意思ヲ以テ為シタルモノニ非ス他ノ事事者之カ為ニ利益ヲ受クルハ至当ニ非ス

年齢ヲ斟酌スルトキハ童幼ニ関スルトキニ非ス老年者ニ関スルトキニ在リ蓋シ未成年者ハ他ニ保護ヲ受クル所アレハナリ

サハ男ニ比スレハ其強暴若クハ脅迫ヲ恐レ又甚シキヤ明カナリ故ニ男サノ別ハ之刑法ノ斟酌ニ可キ事

相互ノ身分トハ主人若クハ親方ノ雇人若クハ職工ニ対シ長官ノ属官ニ対スルノ関係ノ如キヲ謂フ

夫ノ婦ニ対シ又親ノ子ニ対スル関係ニ至テハ
本条特ニ裁判所ノ過当ナル保護ヲ加フル可
カラサルヲ定メ婦又ハ子ハ尊敬ノ餘リ
合意ヲ兼諾スルヲ得サリシト称スルヲ能
ハストセリ

第三百十八条

本条ハ合意ノ成立条件ト其有効条件トノ間ニ証拠ニ関シ存スル所ノ差異ヲ示スモノナリ

合意ノ成立条件ハ推定スルモノニ非ス合意ニ付キ利益ヲ得ントスル者ハ其成立スルヿヲ訴訟ニ於テ一切ノ主要条件具備スルヿヲ証明セサル可カラス之ニ反シ合意成立スル件ハ有効ナリト推定スルカ故ニ表諾ノ不完全若クハ無能力ノ為メ合意ニ瑕疵ト称スルモノ須ク此異常ノ事実ヲ証明セサル可カラス

其ニ此ノ如ク挙証ノ任ニ関シ合意ノ成立ト其有効トハ間々差異ノ存スルハ主ト解明ヲ俟タス

ニテ明カナリト謂フ能ハサルカ故ニ本条特ニ此
差異ヲ場ケタリ故ニ以下之ヲ疏明セン蓋シ
此差異ハ事物自然ノ理ニ出タル二箇ノ原則ニ
基クモノナリ第一ニ上普通ノ法則ニ因レハ世
ノ未タ必スシモ尽クス御互ニ法定ノ義務ヲ常
ルモノニ非ス一人ヨリ他ノ一人ニ対シ義務
ヲ負担スルハ一ノ異常ナル位置ナリトス故
ニ義務ノ成立ノ証拠ヲ挙クルノ任ハ之ヲ称
スルモノニアリ第二ニ既ニ成立スル所ノモノハ有
効ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ合意ニ瑕疵
アルハ必ス当事者ノ一方ニ過失アルニ因ルモ
ニテ其過失タル或ハ注意粗ニシテ錯誤ニ陥ル

り或ハ無能力ニシテ輕躁ナル合意ヲ為シタルヿヲ唱ヘ合意ヲ取消サントスルモノニ在リ或ハ強暴又ハ詐偽ヲ行フタル對手ニ在ルモノナリ故ニ此ノ如キ場合ハ又異常ノ場合ニシテ之ヲ唱フル者其証明ヲ為サヽル可カラス何トナレハ合意ヲ為スヤ概子知覚完全セシテ洋意慎密ニシテ且双方学実ヲ旨トスルモノナレハナリ

第二項ハ主トシテ当事者双方相互ノ詐偽ヲ行ヒ又ハ共ニ無能力ナル場合ヲ着察スルモノナリ蓋シ双方相互ニ強暴ヲ行ヒ又ハ錯誤ニ陥リ或ハ共ニ損失スルハ実際絶テ之レ非サル可シ然リ而シテ前記二箇ノ場合ノミニ適用スルモ本項

ハ頗フン重要ナルモノナリ

蓋シ当事者双方無能力ナル片其一方合意ノ銷除ヲ請求スルニ於テハ他ノ一方假令契約利益ヲ失フモ猶ホ其無効ノ請求ヲ容レサル可カラス蓋シ二人共ニ保護ヲ加フル可キモノナル片ハ損失ヲ避ケンヿヲ求ムル者ヲ保護スルヿ利益ヲ保有セント欲スル者ニ比シ一層大ニナル可キヤ当然ナレハナリ

相互ニ詐欺ヲ行フ場合ニ付テハ稍ヤ疑義ヲ容レ可キカ如シ羅馬法ノ如キハ当事者相互ニ詐欺ヲ行フヿアル片ハ何レモ詐欺ノ訴権アラス ト明定シ之ヲ説明スル者曰ク此場合ニ於テハ双

方ノ詐欺相殺スルモノナリト此論説タル現時ニ至ルモ尚ホ法律ニ明文ナケレハ之ヲ適用スヘカラスト称スルモノアラン然レ共此論説ハ甚タ其当ヲ得タルモノニ非ス蓋シ相互ノ詐欺ヲシテ相殺セシムルハ其定度同一ナラサルヘカラス是レ実際甚タ稀ニナルヘキノミナラス之レヲ査定スルヲ極メテ難カルヘシ何トナレハ双方ノ詐欺ハ其目的ヲ同フセス亦其性質ヲ同フスヘカラサルヘシ是ヲ以テ当事者ヲシテ各其損害ヲ被ムリタル点ニ付キ異義ヲ述フルヲ得セシムルヲ至当トス故ニ当事者双方単ニ契約ノ履除ヲ為サントセハ訴訟ヲ起サシムヘキモ其一方對手ノ詐欺ヲ申立且ツ其詐

ヲ要セテ合意ノ銷除ヲ兼諾セサルトキハ裁判所ハ契約ノ銷除ヲ言渡シ唯タ銷除ヲ請求スル者ヲシテ損害賠償ノ責ニ任セシムルヲ得ヘシ又双方合意ヲ銷除セスシテ単ニ契約ニ付被ムリタル損害賠償ヲ得シムルヲ欲スルトキハ裁判所ハ双方ノ訴訟ノ軽重ヲ比較シ当事者ヲシテ各賠償ノ責ニ任セシメ唯其金額ヲ相殺シ一方ヲシテ其差異ヲ払ハシムルコト

第三百十九条

本条第一項ノ普通則ハ以上説明シタル所ニ付テ観ルハ自ラ明瞭ナル所キヲ以テ敢テ茲ニ詳密ノ説明ヲ要セス本項ニ依レハ銷除訴権ハ法律

ノ完全ナル義務ナリ又無能力ナルカ為ノ合意ヲ無効トシ以テ保護ヲ加ヘントス欲シタル者ノミニ屬スルモノトス

蓋シ何人タリトモ自己ノ過失ヲ以テ其権原ト為スヲ能ハサルカ故ニ詐偽又ハ強暴ヲ行フタル当事者決シテ合意ノ銷除ヲ請求シ以テ合意ノ有償ナル片其合意ニ因リ負担スル所ノ義務ヲ免カルヽヲ得ヘカラサルヤ明カナリ又假令強暴ヲ行フタル者和三者ニシテ結約者之レト商議セサルヤト雖モ猶ホ結約者ハ其對手ノ被フタル強暴ヲ申立ルヲ得ヘカラス勿論強暴ヲ被フリタル当事者合意ヲ銷除シタル片ハ他ノ

一方面過失アルト否トヲ問ハス自己ノ義務ヲ免カルヽ可シ

唯強暴ニ若クハ詐偽ニ起因シタル錯誤重大ニシテ全ク義務ヲ阻却スルトキハ当事者双方各無効ヲ申立ルヿヲ得ス但シ其一方ニ過失アルトキ或ハ猶ホ然リ然レトモ実際過失アル一方ヨリ無効ヲ申立ルヿヲ甚タ稀ナル可シ何トナレハ重大ナル強暴若クハ詐偽ヲ行フヿヲ者ハ必ス對方ノ義務ヲ約セサル可ク假令之ヲ約スルモ其義務ハ負担極メテ軽カル可キカ故ニ契約ニ因リ得ントヲ期図シタル利益ヲ抛擲シ無効ヲ申立ル利益アラサル可ケレハナリ

第二項ニ掲ケタル例外ニ至テハサシテ説明ヲ要
スル盖シ同項ハ諸外國ノ法典ニ於テ論議ヲ生シタ
ル問題ヲ斟定シタルモノナリ
夫レ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ト合意ヲ為シタル
者ニハ銷除許權ヲ与フルカ如キ是レ蓋シ前記ノ原則アルカ故ノミナラス又法律上ノ禁治
産ハ禁治産者ト結約シタル者ノ為メニ設ケタルモノニ非サルカ故ナリ蓋シ法律上ノ禁治産ハ
真ノ刑罰ニ非スト雖モ亦受刑者ヲシテ其着手ニ
贈賄シテ監獄ノ厳例ヲ免カレ加之逃走ヲ遂ク
ルノ方法ヲ得サラシメンカ為メニ刑罰ノ実効ヲ確保ス
ルカ為メ設ケタルモノナリ

且ツ受刑者ト合意ヲ為シタル者ノミナラス亦受刑者ニモ銷除訴權ヲ附与セスシテ之ニ對シ設ケタル規定ニ依リ利益ヲ得セシムヘカラサルカ如シ

然レトモ禁治産ノ如分タル受刑者ヲ嚴待スルカ為メニ設ケタルモノニ非ス深ク慮ラル所アルカ為メニ設ケタルモノナルヲ以テ其制裁ナク徒法ニ属セシムヘカラスシテ之レニ法律ノ期図シタル豫防ノ効力ヲ附スルノ最良手段ハ合意ヲ銷除スルノ利益ヲ有スル者ヲシテ普ク銷除訴權ヲ有セシムルニアリ蓋シ受刑者ヲシテ第三者ニ對シ其義務ヲ免ルヽ又ハ其讓渡シタル財産ヲ

回復スルヲ得セシムル片ハ何人タリトモ之レト
合意ヲ為サシムルヿヲ其者ニシテ之ヲ承諾
セサルヿヲキヤ必然ナリ又第三者ヲシテ其合意ノ
効果ヲ免カルヽヲ得セシムル片ハ受刑者甚モ之
レト合意ヲ為スノ利益ヲ有セサルヿヲ此ノ如ク
ミテ以テ能ク法律ノ趣意ヲ貫徹スルヲ得ル
至ル所ニ見レニ由テ之ヲ觀レハ本条第二項ノ例
外ハ充分ノ理由アルモノナリト雖モ亦慎ムル見
ルニ足ルヿヲ以テ特ニ法律ニ之ヲ掲ケタリ

82

民法理由書

財産編
自第三百二十条
至第三百五十条

且つ受刑者ト合意ヲ為シタル者ノミナラス亦受
刑者ニモ銷除訴權ヲ附与セスシテ之ニ對シ
受益ヲ得セシムルカラサル
ノ規定ニ生キ利益ヲ得セシムルカラサル
ノ理由ヲ詳ニ其事ニ於テ
[illegible]